

第3回「北海道自転車活用等推進連携会議」議事録

1 日時

令和元年11月18日（月） 10:00～11:30

2 場所

北農健保会館3階大会議室

3 出席者

別紙出席者名簿のとおり

4 議題

- (1) 北海道自転車利活用推進計画の推進状況について
- (2) その他

5 議事

- (1) 北海道自転車条例施行後の取組について

事務局より資料1「北海道自転車利活用推進計画の推進状況について」及び資料2「第8回自転車利用環境向上会議 in 北海道・札幌 開催概要」について説明後、構成員と意見交換を実施。

〈意見交換〉①第8回自転車利用環境向上会議 in 北海道・札幌（8/29～30開催）について

【北海道開発局】

- 全国から参加いただいた皆様から、基調講演、パネルディスカッション、分科会、エクスカージョンの各行事いずれも大変役に立った、勉強になったなどという声をいただいた。
- 今回の会議で海外の方に講演いただくなど新たな取り組みを実施したことが、今後に繋がっていくのではないかと感じている。
- 今後「北海道サイクルルート連携協議会」の取組を本格化させていく。現在、次年度以降の本格実施に向け準備を進めており、関係機関の皆さんに是非ご協力を仰ぎたい。

【札幌市】

- 利用環境向上会議を札幌市で開催する話をいただいた際は、札幌市としてはまだ自転車を活用するステージに立っておらず、放置自転車対策のための駐輪場の整備、交通安全という視点からの通行環境の整備を始めた段階で、札幌市としてどう受けとめていけばいいのかと感じていた。
- 打合せの中で全国委員会の方から「自転車が走るからには止める場所が必要であり、駐輪場の整備も立派な利用環境の向上」とのお話をいただき、自分自身も会議に対する考え方が変わった。
- 2日目の分科会「都市交通としての自転車」で札幌市が行っている民間の駐車場の土地を利用した駐輪場整備や、再開発の駐輪場、地下駐輪場などの事例を発表させていただき、同じ分科会でポロクルや横浜市の事例も聞くことができ、有意義な会議だったと感じた。
- 札幌市でも今年度中に「自転車活用推進計画」を策定する予定であり、対策だけではなく推進についても考えていかなければと改めて感じた。

【特定非営利活動法人ポロクル】

- 分科会では、今年度から開始したNTTドコモとの2年間の共同運営の途中経過を紹介し、エクスカージョンの札幌市内の散走では、藻岩山までポロクルの電動アシスト自転車で登り、山の上からの景色を見ることができた。電動アシスト自転車を導入したことによって、ポロクルの利用も伸び、たくさんの方に利用いただけることが今年1年実施してわかり、嬉しく思っている。

【北海道大学大学院工学研究院 萩原教授】

- 分科会「サイクルツーリズム」の座長を務めた。北海道では熱い思いを持った多くの方が活動されており、そこをどう後押しするかということが大切。
- 分科会にも参加したスイスモビリティ財団のルーカス・スタッドテール氏は、スイスモビリティの取組を進めることで、様々な場所に人が立ち入り、自然環境が破壊されるのではないかと、自然環境にとっては逆効果ではないかという質問に対し、人が来ることによってそこに収入が生まれ、そ

こに収入が生まれたことによって、地域の自然環境を保全する活動を積極的に進めていくことができると答え、参加した皆さんもうなずいていた。北海道の綺麗な自然、農村の田園風景、海岸線などを見ていただくためにもやはり、自転車の活用、ツーリズムはとても大切で、そうしたことと相まって北海道が進んでいくことが大事なことだと思った。

〈意見交換〉②3月に実施するチカホイベントでのアイデア、各団体の取組等について

【北海道サイクリング協会】

- 北海道を一周するイベントをこれまで2回実施してきたので、そのパンフレットを持参し、コースの概要、コース内の起伏やトンネルの有無など様々な質問に個別にお答えできるようにしたい。

【北海道大学大学院工学研究院 萩原教授】

- 事前にPRをしてたくさんの人に来ていただくことが大切。魅力的な方もたくさん北海道にいるので、そういう方にお話をいただくなど、人を引きつけ、歩いている人に振り向いてもらえるような仕掛けも必要。

【(一財)北海道交通安全協会】

- 今年は北海道自転車条例の施行や自転車安全利用五則、損害賠償保険への加入を促すパンフレットを作成するとともに、小学生向けに、ヘルメットの着用の必要性を重点的に記載したパンフレットを作成した。
- また、高齢者向けに実施した交通安全出前講話では、自転車事故の高額賠償の事例を紹介し、損害賠償保険等への加入を呼び掛けた。
- 来年度に向けても、損害賠償保険加入の必要性等を周知していきたい。

【(公社)北海道交通安全推進委員会】

- サイクルセーフティーキャンペーンを4月から11月まで実施し、第1、第3金曜を自転車安全日として、街頭啓発を実施している。
- 毎年自転車を使い始める、児童・学生への交通安全リーフレットを配布しているが、今後の課題としては、学生だけではなく、一般の方への普及啓発を展開していくことが必要と考えている。特に来年はオリンピックもあり、外国人の方がたくさん来るため、外国人の方にも交通安全の啓発活動を実施していかなければならない。

【北海道自転車軽自動車販売商業協働組合】

- 自転車安全整備士が点検・整備した自転車に5cm角のシールを貼ることで、保険が適用となるTSマークがある。かつては、賠償限度額が5千万円であったが、現在は1億円となっている。私どもの業界としては、TSマークの推進や防犯登録を含め、自転車を利用する方々の安全と安心を常に送り届けるよう心がけている。
- ストライダーというペダルのない子供用の自転車が人気があるが、子どもたちに自転車の楽しさを実感してもらうには、導入としてストライダーやBMX等、子どもたちがこうした自転車を安全で楽しく乗れる場所や環境・機会の提供を図っていくことを行政でも考えて欲しい。
- オリンピックでは技を競うBMXなどの自転車競技が複数行われるが、制約が多すぎて練習する場所がないというのが現状。規制ばかりでは子どもたちが世界に羽ばたくことができないため、大人たちが練習場所の提供を考えてあげなければならない。
- タンデム自転車の公道走行に向けて準備が進められているが、タンデム自転車は慣れなければ走行が難しい。外国からも多くの方が乗りに来ると思うので、しっかりとした受入対応が必要。

〈意見交換〉③来年度に向けた取組について

【特定非営利活動法人ポロクル】

- ポロクルの自転車にはGPSがついており、自転車の軌跡を見してみると、モエレ沼公園、小樽の方面銭函や定山溪、恵庭のサイクリングロードまでかなり広域に移動している様子が見えた。自転車がどこに行っているかがわかるこの軌跡が、今後サイクルツーリズムや交通安全の面でも何か使えるのではないかと考えている。
- 外国人のお客さんにもポロクルをたくさん使っていただき、ラグビー観戦の際は団体の方でご利用いただいていた。例えば利用の申し込み時に、外国人のお客様に必ず目を通していただけるようなマナー啓発や、日本の観光客の方などにも札幌でのルールマナーなどを先に見ていただいて、利用いただける仕組みができないかと考えている。
- 昨年ポロクルは1年間で平均561回/日利用があったが、今年は速報値で1,043回/日、最高値も昨年1,000回/日が今年は1,600回/日位の利用があり、全体で約1.8倍の利用があった。ユーザー

アンケートも 1,500 件ほど集まっており、今後結果を取りまとめ、収入増・コスト減の取組など持続可能なシェアサイクル事業に向け取り組んでいきたい。

【(公社)北海道交通安全推進委員会】

- 道の来年度の方向性に、自転車と自動車の相互理解の促進に向けた持続的な普及啓発という説明があった。私もロードバイクに乗るが、年々乗る回数が少なくなっている。これは個人的な意見であるが、自転車で車道を走ることの安全性の問題があると思う。自転車と自動車が同じ車道に乗ることについてスピードも出ているし、怖いという経験もしばしばあるので、良い方法がないか。自転車と自動車とが共存できるアイデアが欲しいと期待している。

【北海道サイクリング協会】

- 私もよく自転車に乗るが、最近考えるのは、自転車の方が目立つことが重要ということ。今ヨーロッパなども競技者を中心に、昼間でも必ず点滅のライト付けたまま走るサイクリストが増えている。トンネルが無ければライトをつけない人がほとんどだが、私は自転車の前後に点滅するライトを点灯したまま走行している。そうすることによって車からよく見える。暗い時などは、自転車は車から見えにくいので、自転車が見えるような工夫をサイクリストにしていってほしい。

【シーニックバイウェイ支援センター】

- 自転車利用環境向上会議の札幌市内散走ツアーで、ガイドとして参加した。ガイドとして連れていく際、安全面から歩道を走った方が良い場所も多々あり、道路の整備の面からは、まだ全て車道を走る環境にはなっていないと感じた。ハンドサイクルで参加した方からは、まだ札幌市内は走りにくいといった声もいただいた。
- ガイドを付けた場合、安全な道を選んで走行することもできるが、自転車に乗り慣れていない方が観光でガイドを付けずに自転車を楽しむ事を考えると、走行環境の安全性の向上が欠かせない。
- 自転車をバスや電車に乗せて遠方まで行くモニター調査を行った際、自転車を組み立てて乗り降りすることについて、街中では他の方の邪魔になるため、郊外に行ってから乗降して欲しいと言われるなど、まだ課題も多いと感じた。自転車の旅行者が楽しく、安全に旅行ができるような環境整備が進んでいくことが望まれる。

【北海道バス協会】

- バス運転手から見て自転車は死角に入って見えにくいこともあり、北海道サイクリング協会の意見にもあった、自転車が見えやすくなるような取組を進めていくことは必要。
- 8月の自転車利用環境向上会議では、宗谷バスが利尻島で行っている自転車をそのままバスに載せる取組を紹介させていただいたが、4月から函館バスが、函館江差間、夏場は大沼公園の間も、自転車を10台ほど載せられるバスを運行した。こうした取組はまだ特定の地域だけで実施され、自転車を輪行バックに入れてバスに載せることが一般的な扱いであるが、今後とも様々な地域でこうした取組が進むよう、バス事業者と取り組んでいきたい。

【北海道大学院工学研究院 萩原教授】

- 自転車がどれだけ安全に車道を走れるかということが問われる。私は、免許更新に来た方々にぜひ自転車の話をしてもらえたらと思っている。ドライバーでもあり、自転車側でもある人たちに自転車をどう避けたいのか、自転車に乗る時はどうすべきかを話して欲しい。損害賠償保険についても、自分がどういう保険に入ったらいいかという話もしていただきたい。資料なども用意していただき、自分がどういう保険に入ったらいかを理解させてほしい。
- 先日しまなみ海道を走行したが、今治では狭い道でもうまく車が自転車を追い越していく。車側が自転車との接し方を理解している。そういう面で北海道は遅れていると感じた。どうやって自転車を追い越すか、自転車との接し方ということも免許更新の際や他の啓発を道で実施してほしい。
- 北海道はナショナルサイクルルートに選ばれなかった。今後挑戦していくためには、まずはサイクリストへの情報の拠点の整備が必要。どこで自転車を借りたらいいか、どうしたらガイドしてもらえるのか、今治では、丁寧に説明してくれる。やはり、レベルが違うと感じた。北海道としておもてなしのレベルを上げることができる仕組みを作っていかなければ、ナショナルサイクルルートにはなれないと感じた。

(2)その他

【北海道商工会議所連合会】

- 平成24年度から「サイクルツーリズム北海道推進連絡会」を立ち上げ、道内のサイクルルートなどを道外や海外にPRしている。作成している「サイクルツーリズム北海道」の冊子については、

毎年2月頃を目途に発行している。

- 本年度の冊子の作成に当たり、ルートの情報以外にもサイクリストにフレンドリーな宿泊施設や飲食店、自転車ショップなどを紹介し、サイクル冊子の充実を図っていきたい。掲載は有料となるが、冊子のサイトでは、英語・繁体字を掲載しているほか、自転車 NAVITIME のアプリとも連携しており、是非皆様方に掲載する施設等をご紹介いただきたい。
- 自転車の安全利用向上に加え、地域にお金を落としていく仕組みを作っていきたい。アドベンチャーtravelの観点からも、自転車はまだまだ力を入れていく重点分野と捉えているので、皆様方と協力して取組を進めていきたいと考えている。

第3回 北海道自転車活用等推進連携会議 出席者名簿

団体・所属・職名		氏名(敬称略)
北海道大学大学院工学研究院	教授	萩原 亨
(公社)北海道交通安全推進委員会	事務局次長	加門 清
(公財)ツール・ド・北海道協会	事務局長	清水 敏夫
(一社)北海道商工会議所連合会	業務推進部業務推進課長	高橋 勇一
(一社)シーニックバイウェイ支援センター	研究員	中前 千佳
(一社)北海道バス協会	常務理事	三戸部 正行
(一社)北海道安全運転管理者協会	事務局長	片桐 由一
(一財)北海道交通安全協会	企画推進部企画安全三課長	加藤 正順
北海道自転車軽自動車商業協同組合	理事長	小野 盛秀
北海道サイクリング協会	理事長	村上 昌美
特定非営利活動法人ポロクル	事務局長	熊谷 美香子

北海道運輸局	観光部観光戦略推進官	奥田 秀治
北海道開発局	建設部道路計画課道路調査官	栗山 健作
札幌市	まちづくり政策局総合交通計画部 交通計画課長	星野 樹哉
	建設局総務部道路管理課 自転車対策担当課長	山田 晋
北海道	総合政策部地域振興監	松浦 豊
	環境生活部くらし安全局長	柴田 千尋
	保健福祉部健康安全局長	竹縄 維章
	経済部観光局参事	小林 靖幸
	建設部土木局道路課長	佐藤 匡之
	教育庁学校教育局長	赤間 幸人
	警察本部交通部交通企画課長補佐	佐々木 孝人

【事務局】

北海道総合政策部地域創生局	局長	高見 芳彦
	地域戦略課長	工藤 公仁
	地域戦略課主幹	八田 望
	地域戦略課主査	菅井 美恵子
	地域戦略課主任	萩原 嵩幸